イ	[illegible]
ロ	[illegible]
ハ	[illegible]
ニ	[illegible]
ホ	[illegible]
ヘ	[illegible]
ト	[illegible]
チ	[illegible]
リ	[illegible]
ヌ	[illegible]
ル	[illegible]
ヲ	[illegible]
ワ	[illegible]
カ	[illegible]

第一章
一 これ神の子イエスキリストの福音の始なり 二 預言者の書に録して
我なんぢの面前に我使を遣さん彼はなんぢの前になんぢの道を備へん 三 野に呼は
る者の聲あり主の道を備へ其路を直くせよと有が如く 四 ヨハ子曠野
に於てバプテスマを施し罪の赦を得させんが為に悔改のバプテスマを宣
傳たり 五 ユダヤの全國およびエルサレムの人々かれに來りて各その罪
を認はしヨルダンといふ河にてバプテスマを受 六 ヨハ子は駱駝の毛衣を
着腰に皮帯をつかね蝗蟲と野蜜を食へり 七 かれ宣傳けるは我より勝れる
者わが後に來らん我は屈て其履の紐を解にも足ず 八 我は水をもて爾曹に
バプテスマを施しゝが彼は聖靈をもて爾曹にバプテスマを施すべし 九 其
時イエスガリラヤのナザレより來りヨルダンにてヨハ子よりバプテスマ
を受 十 直に水より上れるとき天開け靈の鴿の如く其上に降るを見たり 十一 又
天より聲ありて云けるは爾は我が愛子わが悦ぶ所の者なりと 十二 而て靈た

たゞちにイエスを野に往しむ　十三 かれ四十日野に在てサタンに試られ獸と共にをれり天の使等これに事ふ○　十四 ヨハネの囚はれし後イエス、ガリラヤに至り神の國の福音を宣つたへ　十五 曰けるは期は滿り神の國は近けり汝等悔改めて福音を信ぜよ○　十六 イエス、ガリラヤの海の邊を歩る時シモンと其兄弟アンデレの海に網うてるを見る彼等は漁者なり　十七 イエス彼等に曰けるは我に從へ我汝曹をして人を漁る者と爲ん　十八 彼等たゞちに其網を棄て之に從へり　十九 其處より少し進行てゼベダイの子ヤコブと其兄弟ヨハネの舟に在て網をつくろふを見て　二十 直に彼等を召ければ其父ゼベダイを傭人と共に舟に遺て彼に從へり○　二十一 彼等カペナウムに至るイエス即ち安息日に會堂に入て教を誨しに　二十二 人みな其教を駭き合り蓋學者の如ならず權威を有る者の如く教たまへば也　二十三 其會堂に汚たる鬼に憑たる人ありて　二十四 喊叫いひけるはナザレのイエスよ我儕汝と何の與り有んや爾來りて我儕を滅すか我なんぢは誰なる乎を知すなはち神の聖なる者なり　二十五 イエス之を責て曰け

イ 可九〇十

ノ 太八〇十四三 十ヽ四、〇 路四章三十一

ホ 路四〇四十二 ヘ 路四〇四十三 ト 路五〇十六

チ 路四〇四十三

二六 るゝ聲を默すこと能はれ其處を出よ 二六汚たる鬼その人を拘攣させ大聲に呼
二七 びて彼を出たり 二七衆人みな駭き相問て曰けるは此ハ何事ぞ新しき教か
ひ權威を以て汚たる鬼さへ嚴しく命じければ從へり 二八是にイエスの
二九 聲名遍くガリラヤの四方に播りぬ○ 二九彼等やがて會堂を出ヤコブ及ヨ
三十 ハネと偕にシモンとアンデレの家に至しに 三十シモンの妻の母熱を患ひて臥ゐけ
三一 れバ人々ただちに之をイエスに告 三一イエス往て其手をとり彼を起しけれ
三二 ば熱たちまち去ぬ而て其婦かれらに供事たり 三二夕がた日の落とき人々す
三三 べての病を患へるもの鬼に憑たる者をイエスに携へ來る 三三その邑こぞりて
三四 門に集れり 三四イエス各樣の病を患へる多の人々を醫し又多の鬼を逐出し
三五 鬼の言ふ事を許さゞりき鬼イエスを識たるに因てなり○ 三五黎明にイエス
三六 早く起て寂寞き所にゆき其處にて祈禱せり 三六シモンおよび偕に在し者
三七 三八 等も其跡を追ゆき 三七彼に遇て曰けるは衆人みな汝を尋ぬ 三八イエス彼等に
曰けるは我ハ教を宣揚る爲に鄰の邑々に往ん我これが爲に

懼れて進 三九 イエス遍くガリラヤの諸會堂にて教を宣且鬼を
逐出せり○ 四十 癩病者の一人かれに來り跪きて求ひ曰けるは若し聖意
に適なば我を潔く爲得べし 四一 イエス憫みて手をのべ彼に按て曰けるは我肯
へり潔なれと 四二 言畢ざるに直に癩病はなれ其人潔まれり 四三 イエス嚴く之
を戒しめて直に去しめ 四四 曰けるは愼みて何事をも人に語る勿れ 唯ゆきて己が身を祭司に見せ其潔られ
し爲にモーセが命ぜし所の物を献て衆に證據をなせと曰て去しめたり
四五 然ど彼いでゝ此事を大に言ひろめたれば イエス此後あらはに邑
に入がたく外なる寂寞き處に居りしに人々四方より彼に就れり

第二章

一 數日の後イエス復カペナウムに來しに 彼の家に居こと聞えけれ
ば 二 直に多の人々集きたり門に立べき場處さへもなき程なりき イエス彼等
に道を宣ぬ 三 此に癱瘋を病たる者を四人に舁せイエスに來れる者ありしが
四 群集によりて近づき難かりければ彼の居ところの家蓋を毀除き穴をあけて癱瘋の
人を床のまゝ縋下せり 五 イエス其信仰を見て癱瘋の人に曰けるは子よ爾

Levi, publican,
Matthew, or Theodore (the gift of God)

の罪赦されたり 六 數人の學者こゝに坐し居しが心中に論けるは 七 此人へ
何故かく妄口を言か 神にあらずして誰か罪を赦すことを得ん 八 イエス直
に彼等が心中に斯の如く論ずるを自ら其心に知て彼等に曰けるは 何故
爾なんぞ心中に斯る事を論ずる乎 九 癱瘓の人に爾の罪は赦されたりと言
と起て爾の床を取て行と言と孰か易や 十 されど人の子は地にて罪を赦す權
威あることを爾曹に知せんとて 癱瘓の人に 十一 我なんぢに告ん起て床
を取なんぢの家に歸れと曰ければ 十二 かれ直ちに起て床をとり衆人の
前にいでゝ衆人みな驚き神を崇めて曰けるは 我儕いまだ斯の如きことを見し
ことなし○ 十三 イエスまた海邊に往しに人みな彼に來ければ彼等を教ふ
十四 然より過てアルパヨの子レビ(といふ者)の税吏の役所に坐し居るを見
て我に從へと曰ければ彼たちて從へり○ 十五 斯てイエスかの家にて食する
時おほくの税吏罪ある人もイエス及び弟子と共に坐せり是等の者許多あ
りてイエスに從ひし也 十六 學者とパリサイの人はイエスが税吏および罪ある人さ

十七 提前一〇十五
十八 馬九〇十四 路五〇三十三
二十 使十三〇二 十四〇二十三
二三 申二十三〇二十五 馬十二〇一 路六〇一

共に食するを見て其弟子に曰けるは何ゆゑ税吏罪ある人と共に飲食する
乎
十七 イエス聞て彼等に曰けるは強健なる者は醫者の助を需ず病ある者
これを需む我來るは義人を招ためにあらず罪ある人を招て悔改させん爲
なり○
十八 ヨハネの弟子およびパリサイの人つねに斷食する事ありければ
彼等イエスに來いひけるはヨハネの弟子とパリサイの弟子は斷食するに
爾の弟子は何ゆゑ斷食せざる乎
十九 イエス彼等に曰けるは婚禮の朋友の
新郎と共にをる間に斷食することを得べき乎彼ら新郎と共にをる間は
斷食することを得じ
二十 然ど新郎かれらを離るゝ日いたらん其日には斷
食すべし
二一 新しき布を舊き衣に縫つくる者あらじ若し然せば其新しき布
るしの布を綻ばして其破れかへつて甚なるべし
二二 亦あたらしき酒を舊き革
嚢にいるゝ者あらじ若し然せば新しき酒は其嚢を破りて酒もれいで革嚢も
亦壞るべし新しき酒は新しき嚢に盛べきもの也○
二三 イエス安息日に麥
田を過りしに其弟子あゆみつゝ麥の穗を摘はじめければ
二四 パリサイの

人イエスに曰けるは彼等安息日に爲まじき事をなするは何故ぞ 二五 イエス答ける
は ダビデ及び從者の乏しくして饑しとき行たる事を未だ讀ざる乎 二六
即ち祭司の長アビアタルのとき神の殿に入て唯祭司の外は食まじき供物の
パンを食かつ偕に在し者にも與たり 二七 また彼等に曰けるは 安息日は人の
爲に設られたる者にして人は安息日の爲に設られたる者に非ず 二八 然ば人
の子は安息日にも主たる者なり

第三章

一 イエスまた會堂に入しに 一手萎たる人ありけるが 二 衆人イエスを
訴んとして彼は此人を安息日に醫すや否やと窺ふ 三 イエス手萎たる人に
曰けるは中に立よ 四 また衆人に曰けるは 安息日には善を行と惡を行と生
るを救ると殺すと孰か爲べき 彼等默然たり 五 イエス怒を含て環視し彼
等が心の頑硬なるを憂ひ手萎たる人に汝の手を伸よと曰ければ伸しに其手
癒て他の手のごとく成たり 六 パリサイの人いでて
イエスを滅さんと直にヘロデの黨と謀議けり○ 七 イエスその弟子と共に

十 [illegible]
十一 [illegible]
十三 [illegible]
十四 [illegible]
十五 [illegible]
十六 [illegible]
十八 [illegible]
十九 [illegible]
二十 [illegible]

海邊に退しに多の人々ガリラヤより彼に從へり又ユダヤ 八 エルサレム イ
ドマヤ ヨルダンの外また ツロとシドンの邊より多の人々イエスの行し事
を聞て彼に詣り來る 九 イエス人々の群集に因て擠なやまさるゝ事なから
ん爲に小舟を彼に備へおけと其弟子に曰り 十 是イエス許多の人々を愈しよ
に因て凡て病ある人々手にて彼に捫んとて擁擠しが故なり 十一 また汚たる
鬼かれを見て其前に俯伏さけびて爾ハ神の子なりと曰しに 十二 イエス彼等
に我を顯す勿れと嚴く戒めたり〇 十三 イエス山に登て其意に適ふ所の
者を召しかバ彼等彼に就り 十四 是に於て十二人を立て己の偕に居しめ又彼等
を遣て道を宣傳させ 十五 病を醫し鬼を逐出す權威を予へん爲なり 十六 シモンに
をペテロと名け 十七 ゼベダイの子ヤコブと其兄弟ヨハネ 此二人をボアネ
ルゲと名く之を譯ば雷の子なり 十八 又アンデレ ピリポ バルトロマイ マタイ
トマス アルパイの子ヤコブ タダイ カナンのシモン 十九 又イスカリオテの
ユダ 此ハイエスを賣しゝ者なり 二十 彼等の或家に入しに多の人々また集り

帰りけれど食する暇もなかりき 二一 その親属これを聞て彼は狂気せりと言て之を執へんとて出る 二二 又エルサレムより下し学者等も彼はベルゼブルに憑れたり且鬼の王に頼て鬼を逐出すなりと曰り 二三 イエス彼等を召び譬を以て曰けるはサタンは何でサタンを逐出し得んや 二四 もし国おのれに悖て分争へば其国立べからず 二五 また家おのれに悖て分争へば其家立べからず 二六 若サタン己に悖り起て分争へば立つ可らず反て亡るなるべし 二七 誰にても勇士の家に入て其家具を奪んとせば先勇士を縛らざれば奪ふこと能はじ縛て後その家を奪ふべし 二八 われ誠に爾曹に告ん人の凡の罪と讟す所の讟は皆赦さるべけれど 二九 聖霊を讟す者は限なく赦さるる事なく却て永遠の罪に干らん 三十 此は彼等イエスを汚鬼に憑たりと言しが故なり○ 三一 爰にイエスの母と兄弟ら来りて戸外にたち人を遣してイエスを呼しむ 三二 多の人々イエスを環て坐したりしが彼に曰けるは見よ爾の母と兄弟戸外に在て爾を尋ぬ 三三 イエス答て曰けるは我母わが兄弟は誰ぞや 三四 環て坐する人

人を環視して曰けるは我母わが兄弟を見よ 三五 それ神の旨に從ふ者は是わが兄弟わが姉妹わが母なり

第四章

一 イエスまた海邊にて教誨を始しに多の人々かれに集りければ彼舟に乗て坐し凡の人々は海に沿て岸に立り 二 かれ譬をもて多の事を彼等に教へ教て曰けるは 三 聽よ播者播んとて出ゆき 四 播るとき或種は路の傍に遺しが鳥の來りて之を食へり 五 或種は土うすき磽地に遺しが土深かられ直に萌出たれど 六 日出しかば焦れ根なき故に槁たり 七 また或種は荊棘の中に遺しが荊棘そだちて之を蔽ければ實を結ばざりき 八 また或種は沃壤に遺しが萌出て長そだち實を結べり或は三十倍或は六十倍ある者は百倍せり 九 また彼等に曰けるは耳ありて聽ゆる者は聽べし○ 十 イエス獨り居給へる時その側に在し者と十二の弟子その譬を問しかば 十一 イエス彼等に曰けるは神の國の奧義を知ことは爾曹に賜へど外の者には凡て譬を以てす 十二 是かれら視ときは見て見ず聽ときは聽て悟らずして心を改めて其罪

の教を信ぜざらん爲なり　十三 また彼等に曰けるは爾曹この譬を知ざるか若しらずば
如何して凡の譬を識ことを得んや　十四 播者は道を播なり　十五 道の播れて
路の傍に遺しものは人道を聽しとき直にサタン來て其心に播れたる道を奪
十六 去なり　また磽地に播れたるものは人道を聽とき直に喜びて之を受
十七 然ども己に根なきが故に暫時のみ保道の爲に患難あるひは迫害に遇と
十八 きは直ちに躓く者なり　また荊棘の中に播れたるものは人ことばを聽ども
十九 世の思慮と貨財の迷また各様の慾望いり來りて道を塞により實を結
二十 ざる者なり　沃壤に播れたるものは人道を聽て之をうけ或は三十倍ある
二十一 ひは六十倍あるひは百倍の實を結ぶ者なり　また彼等に曰けるは
燈を持來りて斗の下あるひは牀の下に置しの者んや之を燈臺の上に置ならず
二十二 二十三 乎　それ隱れて顯れざるものなく蔽れて露れざるものなし　耳ありて聽ゆる
二十四 者は聽べし　また彼等に曰けるは聽ところを愼めよ爾曹が量る所の量を
二十五 もて爾曹も量らるべし聽たる爾曹には尚ほ加られん　それ有る者は尚ほ

[illegible]

奪るべし○　二六 また曰けるハ神の國ハ人の種を
地に播が如し　二七 日夜起臥する間に種は芽いでゝ成長すれども其然る所を知ず　二八
それ地ハ自から實を結ぶものにして初に苗次に穂後には穂の中に滿
たる穀を結ぶ　二九 既に熟ス穂時いたるに直に鎌を入る收穫の時至れる也○　三〇 また
曰けるハ神の國ハ何に比へ何の譬を以て之を喩へん　三一 一粒の芥種のごとし
之を地に播ときハ地にある百種の種よりも小けれど　三二 既に播て萠出れバ百種の野菜
よりハ大くかつ巨なる枝を出して空の鳥その蔭に棲ほどに及なり○　三三 イ
エス彼等の聽ところに隨ひ多かる譬をもて道を彼等に語れり　三四
譬ならでは彼等に語ずイエス弟子と共に居る時凡の事を解明せり○
三五 其日の夕イエス弟子に向ひ彼岸に渡れと曰けれバ　三六 弟子
たち衆人を歸らせイエスの舟に在るを其まゝ之を載て渡れり又他の小舟
もこれに從り　三七 時に颶風おこり浪うちて舟に入み舟に滿んとす　三八 イエス艫のか
たに枕して寢たりしが弟子かれの目を醒して曰けるハ師よ我儕の滅るを

＊路加八〇二十一
＊馬太八〇二十八
路加八〇二十六
＊七

三九 ざるを顧み給はざる乎　イエス起て風を斥め且海に對ひて默せよ靜まれと曰け
四十 れば風やみて大に和ぎたり　斯て彼等に曰けるは何故かく懼るゝや爾曹なん
四一 ぞ信なき乎　彼等甚しく懼れ互に曰けるは風と海さへも順ふ是誰なる乎
一 二 第五章 斯て海を渡りてガダラ人の地に至る　舟よりイエスの上れるとき穢
三 鬼に憑れたる人たちまち墓間より出て彼に遇ふ　この人は墓間を居處とせ
四 り既に鏈をもて繋も繋ぐこと能はず　屢桎梏と鏈をもて繋れしが鏈をちぎり桎梏を打摧により之を服うる
五 者なく　晝夜つねに山と墓間に於て號び
六 また石をもて己が身を傷つけ居　彼はるかにイエスを見て趨より之を拜
七 し　大聲に呼りけるは至上神の子イエスよ我なんぢと何の關係あらんや我
八 神に誓て求ふ我を苦むること勿れ　是イエス彼に汚鬼よ人より出よと曰しに
九 因てなり　イエス彼に爾の名は何と問しに答けるは我儕多きが故に我
十 名をレギオンと云　切に其地より我儕を逐出す勿れとイエスに求たり
十一 十二 彼處に豚の大なる群山に食ゐたりしが　凡の鬼かれに求て我儕を豚に

[illegible]

十三
て豕に入せよと曰ければ　十三イエス直に彼等に許せり汚たる鬼らの人より
出て豕に入しかバ約ち二千匹ほどの群はげしく馳くだり山坂より海に落
十四
て海に溺死ぬ　十四牧者ども逃ゆきて此事を邑また郷村に告ければ衆人其あり
十五
し事を視んとて出　十五イエスに來りて惡鬼に憑れたる者すなはちレギヲン
十六
を有たりし人の衣服をつけ慥なる心にて坐し居けるを見て懼あへり　十六此
十七
事を見し者ども惡鬼に憑れたりし者の事と豕の事を彼等に告ければ　十七彼等
十八
てイエスに其境を出んことを求ぬ　十八イエス舟に登んとせしとき惡鬼に憑
十九
れたりし者ともに居んことを求けれども　十九イエス許ずして彼に曰けるハ爾
二十
の家に歸り親戚に主の爾に行し大なる事と爾を憐みし事を告よ　二十彼
ゆきてイエスの己に行たまへる大なる事をデカポリスに言揚しければ衆
二一
人みな驚きあへり○　二一イエス舟に乘て渡海の彼岸に到しに大勢の人かれ
二二
に集るイエス海邊に在ければ　二二會堂の宰ヤイロといふ人きたりイエスを
二三
見て其足下に俯　二三切に求いひけるハ我いとけなき女兒死る際になりぬ之

な救ん爲に來りて手を彼に按たまへ然ば女は生べし 二四 イエス彼と共に往
とき衆多の人々彼に從ひて擁あへり 二五 茲に十二年血漏を患たる婦あり 二六
許多の醫者に多の難み苦められ其所有を盡く費しけれども少の
效もなく轉て悪かりしが 二七 イエスの事を聞て群集の中より後に來り
其衣に捫れり 二八 是その衣に只に捫ば痊るべしと曰ばなり 二九 頓て血の源
かわき疾の痊えしを其身に覺たり 三十 イエス自ら能力の己よ
り出たるを知ば回顧て群集に向ひ誰が我衣に捫りしと曰ければ
三一 弟子かれに曰けるは群集の爾に擁あふを見て誰が我に捫りしと爾いふ
乎 三二 イエス此事を行る婦を見んとて環視しければ 三三 婦お
のが身に成られし事を知て懼れ戰き來て彼の前に俯伏その實を悉く告
ぐ 三四 イエス彼に曰けるは女よ爾の信爾を愈せり安然に往て爾の病痊よ
三五 イエス此事を言るうちに會堂の宰の家より人々來り
爾の女すでに死たり何ぞ師を煩はす乎 三六 イエス直に其語る

甲 太九〇廿
乙 路八〇四十六
丙 太十〇三十二 路十〇四十八 十 路八〇四十九

三七 所の言をきゝ會堂の宰に曰けるハ懼るゝ勿たゞ信ぜよ　イエスペテロと
三八 ヤコブ及びヤコブの兄弟ヨハネの外ハ一人にも共に往ことを許さゞりき　既に會
堂の宰の家に來りて人々の忙亂いたく哭泣を見る　入て彼等に曰けるハ
三九 何ぞ忙亂かつ哭や女ハ死るに非ず寢たる耳　彼等イエスを嘲笑ふイエス
四〇 人衆の人々を出し女の父母と己の從へる者等を率つれ女の臥たる所に入
四一 女の手を執て之に曰けるハタリタクミ之を譯ば女よ我なんぢに命ず起
四二 よといふ義なり　直に女おきて行めり彼ハ年十二歳なり彼等はなハだ駭
四三 きぬ　イエスこの事を人に知する勿れと嚴く戒め又女に食物を與よと命
じたり

第六章

一 イエス此を出て郷に到しに弟子も從へり　二 安息日に及け
れバ會堂にて教をはじむ衆人これを聞て奇み曰けるハ此人ハ是等の事を何處より
得しや又此人に賜れたる智慧ハ如何なるぞ如此き能その手より行るゝハ何ぞや
三 此ハ木匠にて馬利亞の子ヤコブ ヨセ ユダ シモンの兄弟に

して其姉妹も我に我等と共に在すや遂に人々彼に躓けり　四 イエス彼等に曰けるは預言者は其故郷その親戚その家室の外に於て尊ばれざることなし　五 イエス彼處にて患者に手を按たまひ數人を醫しの外は何の異能をも行こと能ざりき　六 また彼等の信ぜざるを奇しみ遂に周く村々に教をなせり○　七 イエス十二の弟子を召て彼等を二人づつ遣さんとして之に穢鬼を逐出す權威を授け　八 且かれらに命じけるは一の杖の外は路の用意に何をも携ふる勿れ嚢も餅も帯の中に錢をも携ふる勿れ　九 ただ鞋をはき二の衣をきる勿れ　十 また彼等に曰けるは何處にても人の家に入ば其處を去までは其家に居れ　十一 凡て汝等を接ず汝等に聽ざる者あらば其處を去るとき證據のため足下の塵を拂へ〔我まことに汝等に告ん審判の日にはソドムとゴモラは彼邑よりも易かるべし〕　十二 弟子たち出て人々に悔改めよと宣傳へ　十三 又多の鬼を逐出し又多の病る者に膏を抹て醫せり○　十四 イエスの名顯ければヘロデ王これを聞て曰けるはバプテスマのヨハネ死よ

四 太十三〇五七 / 五 約四〇四十四 / 六 太九〇三十五 路八〇一 / 七 太十〇一 可三〇十三 路九〇一 / 八 路十〇四 / 十 太十〇十 路九〇三 / 十一 太十〇十四 路十〇十一 / 十三 太十〇十五 / 十四 太十四〇一 路九〇七

十五 り離れる故に淫穢なる儀をなす由 或人へ之をエリヤなりといひ或人へ
十六 往昔の預言者の如き預言者なりと曰 ヘロデ之を聞て曰けるへ是わが首
十七 斬し所のヨハネ也死より甦りたる也 蓋ヘロデ其の兄弟ピリポの
妻ヘロデヤの事に因て人を遣しヨハネを捕へて獄に繋げり 蓋ヘロデ彼の
十八 婦を娶しを ヨハネ ヘロデに謂て爾兄弟の妻を娶るへ宜からずと曰るに因てなり
十九 廿 ヘロデヤ彼を怨て殺さんと欲しかど能ざりき ヘロデへヨハネを
つ聖なる人と知て彼を懼れ保護かれに聴て多の事を行ひ喜て彼
二一 に聞ことをせり 適て ヘロデ己の誕辰の日に於て大臣千夫の長およ
二二 びガリラヤの貴き人々に宴宴をなせる機會の日いたりけれバ ヘロデヤ
の女たりて舞をなし ヘロデ及其席に列れる人々を悦ばせたり 王その女に
二三 曰けるへ何にても欲ところのものを我に求へ我なんぢに與ふべし 又誓
二四 て凡て爾が求るものへ我が國の半に至るとも爾に與んと誓ふ 女いで
て其母に何を求べきやと曰ければ母乃ちバプテスマのヨハネの首と曰り

二五 女たゞちに急ぎ王にきたり求てバプテスマのヨハネが首を盤に載て直に我に與へよと曰
二六 王甚く憂けれども其誓たると同席の者の故とをもて之を拒むことを欲ず
二七 王たゞちに衞兵をつかはし其首を携來れと命じければ彼ゆきて獄に於て之を斬
二八 其首を盤に載て携來り女に與へ女これを其母に與たり
二九 ヨハネの弟子等この事を聞て來り其屍を取て墓に葬れり○
三十 使徒等イエスに集り其行しことと教しことを悉く彼に告
三一 イエス彼等に曰けるは汝等ひそかに野に往て暫く息へ是は往來の者多して食する暇もなかりし故なり
三二 かれら人を避舟に乗て寂寞ところに往けり
三三 其往を見て衆人おほくイエスなりと識り諸の邑より徒行にて其處へ奔ゆき彼等に先ちて至りイエスに集れり○
三四 イエス出て多の人を見彼等は牧者なき羊の如くなるに因て之を憐み許多の事を教はじめぬ
三五 時すでに暮になりければ其弟子かれに來りて曰けるは此は寂寞ところにして時も既に晩し
三六 衆人の食ふべき物なきが故に其自ら周圍

の郷村に往てパンを出んが為に彼等を去しめ給へ　三七 イエス答けるは爾曹
これに食を與へよ弟子かれに曰けるは我儕ゆきて銀二百のパンを買かれら
三八 に與て食しむ可か　イエス彼等に曰けるは爾曹パン幾許ある往て見よ彼等
三九 みて其數をあり五のパンと二の魚ありと答ふ　イエス衆の人を組々にし
四十 て青草の上に坐しめよと命じければ　彼ら百人或は五十人づゝ列坐せり
四一 イエス五のパンと二の魚をとり天を仰ぎ謝してパンをわり弟子み
四二 四三 與て人々の前に陳しむ又二の魚を衆人に分與ふ　衆人みな食て飽　その
四四 パンと魚の餘屑を拾ひしに十二の筐に盈たり　パンを食たる者は男
四五 五千人なりき○　直にイエス其の弟子を強て舟に乘むかふの岸なるベテサイダ
四六 に往しめ己は衆人を歸しむ　衆人を辭しての後祈禱の為に山に
四七 四八 往り　日暮て舟は海の中に在イエスは獨り陸に在す　風逆ふに因て弟子
等の舟を搖に勞たるを見て夜の四時ごろイエス海の上を步み來りて彼等を
四九 過んとせし　弟子その海を履るを見て變化の物ならんと思ひ叫びたり

[illegible]

五十 弟子みるを見て慍むが故なりイエス直に彼等に語りて曰けるは心を
安かれ我なり懼るゝこと勿れ 五十一 彼等に舟に登しかば風やみぬ彼等心の内に
驚き異めること甚し 五十二 是かれら心鈍くして餅の奇跡を曉らざりし故な
り ○ 五十三 渉りてゲネサレといふ地に到て舟を岸に繫ぎ 五十四 彼等舟より出しに衆人
直にイエスを知て 五十五 周く其四方の地へ趨ゆき病る者を床の儘にて舁ひイエ
スの在す處々を聞出して之に就り 五十六 凡そイエスの至るところ或へ郷ある
ひは邑あるひは村々の街衢に病る者を置て彼に其衣の裾にだに捫らせ給
へと求り乃ち捫る程の者はみな愈たり

第七章

一 爰にパリサイの人と或學者たちエルサレムより來りてイエスの許に集
り 二 彼の弟子の中に潔らざる手即ち洗ざる手にてパンを食する者あるを
み見て咎め尤めたり 三 パリサイの人とユダヤの人々は皆古の人の遺
傳を守りて其手を盥あらざれば食せず 四 また市より歸きたりて澡されば
食せず此ほかに杯 銅器 床を洗ふ事など多端の遺傳を受守れり 五 是に於て

パリサイの人と學者等イエスに問けるハ爾の弟子ハ何ゆゑ古の人の遺傳
六 に遵ハずして潔ざる手を以てパンを食する乎　イエス答て彼等に曰ける
ハイザヤハ僞善者なる爾曹を指て預言せり其録しゝ所に此民ハ唇に
七 て我を敬ふ然ど其心ハ我に遠ざかれり　人の誡を教とし教ふれバ徒に我を拜む
八 なり　夫爾曹ハ神の誡を棄て人の遺傳を守れり即ち瓶や杯を洗ふ類の多
九 の事を行ふ　また彼等に曰けるハ爾曹ハ實に己の遺傳を守んとて
十 神の誡を棄る者なり　モーセハ曰ける汝の父母を敬へ又父あるひハ
十一 母を詈る者ハ必ず殺さるべしと　然ど爾曹ハ曰ふ若人父あるひハ母に對て我
十二 が爾に供ふべき物ハコルバン即ち禮物なりと曰バ可　斯て其
十三 父あるひハ母に何事をも爲すことを許さず　爾曹が傳へ傳る遺傳を以て神の言を
十四 廢す又此類の事を多く行ふ○　イエスまた衆人を
十五 召て彼等に曰けるハ爾曹みな我に聽て悟れ　外より人に入る者ハ人を
十六 汚すこと能はず人より出る者これ人を汚すなり　聽ゆる耳ある者ハ聽

べし○ 十七 イエス衆を離れて家に入しに其弟子たち此譬の意を問けれバ
十八 彼等に曰けるハ爾曹も亦かく悟なき乎凡そ外より人に入しもの人を汚し能
はざる事を知ざる乎 十九 蓋その心に入ずして腹に入り厠に遺すなり是すべての食物の
もの潔れり○ 二十 又曰けるハ人より出るもの人を汚す 二一 それ內より即ち人の心より出るも
の惡念 姦淫 苟合 兇殺 二二 竊盗 貪婪 兇惡 詭譎 好色 嫉妬 謗讟 驕傲 狂妄な
り 二三 此等の惡行ハみな內より出て人を汚すもの也○ 二四 イエス此を去て
ツロとシドンの界にゆき或家に入て人に知れざらんことを欲しが隱れ得ざりき
二五 一人の婦あり其稚女汚たる鬼に憑れたりしがイエスの事を聞て來り其足下に伏たる
二六 此婦ハギリシヤ人にてスロピニケの族なりしが其女より鬼を逐出し給ハんことを
イエスに求む 二七 イエス彼に曰けるハ先づ兒女を飽しむべし兒女のパンを取て
犬に投るハ善らず 二八 婦こたへて曰けるハ主よ然ど犬も案の下に在て兒女の
遺屑を食ふ也 二九 イエス彼に曰けるハ此言に因て歸れ鬼ハ既に汝の女より出たり
三十 婦その家に歸しに鬼既に出て女ハ牀に臥たり

イ 約翰六〇三十五
ロ 太十五〇十一

出て牀に女の臥たるを見る○ 三一 イエス又ツロとシドンの境を去て
デカポリの境を經ガリラヤの海に至れり 三二 人々耳聾にして言ひ難き者をイエスに携來りて
手を按んことを求ければ 三三 イエス衆人を離れ之を外へ攜ゆき指を其耳
に入れ唾して其舌に捫り 三四 且天を仰ぎて歎じ其人に對てエパタと
曰これを譯ば啓よとの義なり 三五 直に其耳ひらけ舌の縛ゆるみて正く言へ
り 三六 イエス之を人に語る勿と彼等を戒しめしが戒しむるほど彼等いよいよ言弘めたり 三七
衆人甚だ奇しく驚きて曰けるは此人の行し所ことごとく善あるかな聾
を聽えさせ瘖者を言しめたり

第八章

一 當時あつまれる人々甚だ多りし然ど何の食物もあらざりければイエス
其弟子を召て曰けるは 二 我この多の人々を憫む既に三日われと共に居し
ゆゑ今なにも食物なし 三 もし飢しまゝ其家に歸さば途間にて疲ん其中に
遠處より來れる者あれば也 四 その弟子かれに答けるは此野にて何處より
パンを得この人々を飽しめん乎 五 イエス彼等に問けるはパン幾許あるや

ヲ 馬太十五ノ三十六
ワ 馬太十六ノ一
カ 路加十二ノ一

七と答ふ
六 イエス人々に命じて地に坐せしめ七のパンを取て謝し之をわり人々の前に陳しめんが爲その弟子に與けれバ即ち人々の前に陳り
七 また少許の小魚ありけれバ祝して之をも人々の前に陳よと曰
八 人々これを食て飽ち其餘の碎屑を拾ひ七の筐に満り
九 之を食る者おほよそ四千人なりき乃ちイエス之を歸しむ○
十 イエス直に其弟子と共に舟に乗てダルマヌタの方に往しに
十一 パリサイの人いでゝ彼を試んため天よりの休徴を求めて論じはじむ
十二 イエス心の中に深く歎息して曰けるハ此世の人なんぞ休徴を求るや誠に我なんぢらに告ん休徴ハ此世の人に必ず與られじ
十三 イエス彼等を離れて舟に乗て彼岸に往れり○
十四 また弟子パンを携ふることを忘れたゞ一のパンのみ舟に有き
十五 イエス彼等を戒めて曰けるハ慎心してパリサイの人の麪酵とヘロデの麪酵を防よ
十六 弟子たがひに論じて曰けるハ我儕パンを携へざりし故ならん
十七 イエス之を知て彼等に曰けるハ何ぞ互にパンを携へざりし事を論ずるや未だ悟ざるか爾曹の心は尚愚か
十八 目ありて視

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

ざるか耳ありて聽えざる乎また憶えざる乎
十九 我五千人に五のパンを擘あたへし時爾曹その餘屑を幾筐ひろひしや彼等いひけるは十二なり
二十 又四千人に七のパンを擘あたへし時爾曹その餘屑を幾籃ひろひしや彼等いひけるは七なり
二一 イエス彼等に曰けるは如何ぞ悟ざる乎○
二二 イエス ベテサイダに至ければ人瞽者を携來りて之に手を按たまはん事を求り
二三 イエス瞽者の手を執て村の外へ導き其目に唾して手を彼に按ひけるは何か見るや
二四 瞽者目を擧て曰けるは我この人々の歩行を見に樹の如し
二五 また其手を彼の目に按ろの目を仰きせければ乃ち愈て萬物あきらかに見たり
二六 イエス彼を其家に歸らせ曰けるは此村に入なかれ且この村人にも語る勿れ○
二七 イエス其弟子と偕にピリポ・カイザリアの諸村へゆく途間にて其弟子に問て曰けるは衆人は我を誰と曰や
二八 答けるはバプテスマのヨハネ或人はエリヤ或人は預言者の一人なりと曰り
二九 イエス彼等に問けるは爾曹は我を誰と曰や ペテロ答けるは爾はキリストなり
三十 イエス彼

等を戒めて我事を誰にも告るなかれと命じたり○
三一 また人の子は多くの苦を受長老祭司の長學者に棄られ且殺されて三日の後に甦るべきことを教へ始たまふ
三二 明に之を示し給しかばペテロ彼を携て諫めはじめしに
三三 イエス回顧りて其弟子を見てペテロを責て曰けるはサタンよ我後に退け汝は神の事を思はず反て人の事を念ふ○
三四 衆人を其弟子と共に召て彼等に曰けるは若人我に從はんと欲はゞ己を捨その十字架を負て我に從へ
三五 蓋己が生命を救はんとする者は之を喪ひ我と福音の為に生命を喪ふ者は之を救ふべし
三六 人もし全世界を得るとも其生命を喪はゞ何の益あらんや
三七 また人何をもて其生命に易んや
三八 凡そ淫亂なる罪ある此世にて我と我言を恥る者は人の子も其父の榮光をもて聖使等と偕に來らん時之を恥べし

第九章

一 イエスまた彼等に曰けるは誠に我なんぢらに告ん此に立る者の中に神の國の權威をもて來るを見まで死ざる者あり○
二 さて六日の後

エス ペテロ ヤコブ ヨハネを伴ひ人を離て高山に登り給ひしが彼等の前に
三 て其容貌變り 其衣かゞやき甚だしく白くして雪のごとく世上の布
晒も斯く白くすること能はざるべし 四 エリヤとモーセと共に彼等に現れてイ
五 エスと語をれり 五 ペテロ答てイエスに曰けるはラビ我儕こゝに居は善わ
六 れらに三の廬を建ん一は主のため一はモーセのため一はエリヤの爲
七 にせん 六 此は其言ところを知ざりしなり彼等いたく懼しに因て 七 雲起て彼
八 等を蔽ひ雲より聲出て曰けるは此は我愛子なり之に聽べし 八 彼等
九 環視ければイエスと己の外は一人をも見ざりき○ 九 山を下る時にイエス
彼等に命じて人の子の死より甦る迄は見し事を人に語る勿れと曰
十 り 十 弟子等この言を守かつ互に論じ曰けるは死より甦るとは何ぞや
十一 十一 彼等イエスに問て曰けるはエリヤ先に來るべしと學者の曰るは何ぞ
十二 や 十二 イエス答て曰けるは實にエリヤは前に來りて萬事を復興また人の子
十三 に就ては其多難の苦を受かつ輕侮らるゝ事を書しるされたり 十三 然ど我

なんぢらに告ん エリヤ既に來れり彼に就て録されたりし如く人々意の任
十四 に之を待へり○ イエス弟子等の所にきたり多の人々の彼等を環る
十五 を學者たちの彼等と論じあらそふを見たり 衆人たちまちに彼を見て甚だ驚き趨
十六 十七 よりて禮をなせり イエス學者に問けるは爾曹かれらと何事を論ずるぞ 衆人
のうち一人こたへけるは師よ啞の鬼に憑れたる我子を爾に携來
十八 れり 惡鬼の憑時は打倒され沫をふき齒を切て身體はつる也 これを爾
十九 曹の弟子に逐出さんことを請しかど彼等能ざりき イエス彼等に答
て曰けるは噫信なき世なる哉 我いつまで爾曹と共に在んや何時まで
二十 爾曹を忍ばんや 彼を我に携來れ 彼等その子を携來りしに惡鬼イエ
二一 スを見て直に彼を引つけたれば地に仆れ轉び沫をふけり イエスその父に
二二 問けるは此は何時よりの事なるか 父いひけるは少時よりなり 惡鬼しばしば
之を火の中水の中に投入て亡さんとせり 然ど汝もし爲しうる事あらば
二三 我儕を憫みて助けよ イエス彼に曰けるは爾もし信ずる事を得ば信ずる者

に對て爾あたはざる事なし 二四 其子の父たゞちに聲をあげ涙を流して曰けるは主よ我信ず我が信なきを助たまへ 二五 イエス衆人の趨集るを見て汚鬼を責いひけるは瘖にして聾なる惡鬼よ我なんぢに命ず此者より出て再び之に入るなかれ 二六 惡鬼さけびて大に彼を拘攣しめて出しかバ彼死たる者の如くなりぬ人々これを已に死りと云 二七 イエスその手を執て扶けれバ起たてり○ 二八 イエス家に入しに其弟子ひそかに問けるは我儕これを逐出すこと能ざりしは何故ぞ 二九 イエス彼等に曰けるは此類は祈禱と斷食に非れバ逐出すこと能ざる也○ 三十 彼等此を去てガリラヤを過この時イエス人の知を欲ざりき 三一 蓋その弟子に教て人の子は人の手に付され彼等之を殺さん殺されてのち第三日目に甦るべしと曰たまふが故なり 三二 然ど弟子等この言を曉らず亦問ことを懼たり○ 三三 偖イエス カペナウンに至り室に居て弟子に問けるハ汝等途間にて何を互に論ぜし乎 三四 弟子默然たり是途間にて互に論じ誰か大ならんとの事ありければ也 三五 イエス坐して其十二を召かれらに曰

けるは若し首たらんと欲ふ者は凡の人の後となり且すべて人の役と
ならん 三六 また幼子を取て彼等の中に立て之を抱き彼等に曰けるは 三七
我名の為に如此幼子の一人を接る者は即ち我を接るなり 又われを
接る者は即ち我を接るに非ず我を遣しし者を接るなり ○ 三八 ヨハネ彼に答へ
て曰けるは師よ我儕に從はざる者の爾の名に托て鬼を逐出せるを見し
が我儕に從はざる故これを禁たり 三九 イエス曰けるは之を禁る勿れ 蓋わ
が名によりて異能を行ひて輕易く我を謗り得る者はあらじ 四十 凡そ我儕に
敵せざる者は我儕に向ふ者なり 四一 誰にても爾曹キリストに屬ふ者として我名の為に一
杯の水を爾曹に飲する者は我まことに爾曹に告ん必ず其賞を失はざ
る也 四二 凡そ我を信ずる此微子の一人を躓かする者は寧ろ磨石を其頸に懸られ
て海に投入られんは其人の為に尚善るべし 四三 若し爾の手なんぢを躓か
さば之を斬去れ 殘缺にて生命に入は兩手ありて滅ざる火に入るより愈れり
にて地獄に入へ滅ざる火に入よりも愈れり 四四 ―彼處には其蛆も死ず火も消ざる也

若なんぢの足なんぢを礙かさバ之を斷され兩足ありて地獄すなハち滅
四六 ざる火に投入られんよりハ跛にて永生に入ハ汝に善なり（地獄にて
四七 その蟲つきず火もきえず）もし爾の目なんぢを礙かさバ之を抉いだせ
兩眼ありて地獄の火に投入られんよりハ一眼にて神の國に入ハ
四八 四九 善なり　彼處にてハ其蛆つきず火もきえざる所なり　蓋すべての人ハ火をもて鹽つけらるゝ
五十 如く火をもて鹽つけられ凡の祭物ハ鹽をもて鹽つけらるべし　鹽ハ善もの也
鹽もし其味を失ハ何をもて之に味を加へんや　爾曹心の中に鹽を保ち又
互ひに和み睦ぐべし

第十章

一 イエス此處を出てユダヤの境に至りヨルダンの外に到れり衆の人
二 又また彼に集りければ其常の如く彼等に教誨を爲たまへり　パリサイの人
三 來て彼を試み問けるハ人その妻を出すハ可か　答て曰けるハモーセハ爾
四 曹に何と命ぜし乎　彼等曰けるハモーセハ離縁状を書與へて之を出すを
五 許せり　イエス答て彼等に曰けるハモーセハ爾曹の心つれなきに因て此の

命を得たる也 六 然ど開闢のはじめ神人を男女に造り給へり 七 是故に人は
その父母を離て其妻に合て 八 二人のもの一體と成べし然ば二に非ず一
體なり 九 是故に神の耦せ給へる者は人これを離すべからず○ 十 家に在て
弟子等また此事を問ければ 十一 イエス彼等に曰けるは凡そ其妻を出して他
を娶る者は其妻に對して姦淫を行ふなり 十二 また婦もし其夫を出して他
に嫁ば姦淫を行ふなり○ 十三 イエスに撫れんがため人々幼兒を
携來けれバ弟子等その携來れる者を責めたり 十四 イエス之を見て怒り彼
等に曰けるは幼兒の我に來るを容せよ之を禁る勿れ神の國に在ものは斯の
如き者なり 十五 我誠に汝等に告ん凡そ幼兒の如くに神の國を承る者
ならずば之に入ことを得ざる也 十六 即ち幼兒を抱て手を其上に按これを祝せり
○ 十七 イエス途に出けるに一人はしり來り跪き問けるは善師よ永生を嗣が
ために我何を行べき乎 十八 イエス彼に曰けるは何故われを善と稱ふや
神ひとりの外に善者はなし 十九 誡は爾が知ところなり姦淫する勿

■ 太六〇十九、廿　路十二〇三十三　參照

● 詩六十二〇十　提前六〇十七

▲ 創十八〇十四　路一〇三十七

二十 れ殺なかれ盜なかれ妄の證を立る勿れ掠奪なかれ爾の父と母を敬へ　二十 答
二一 て曰けるは師よ是みな我が幼きより守れるもの也　二一 イエス彼を見て愛み
曰けるは爾なほ一を缺ゆきて爾の所有を賣て貧き者に施せ然ば天に於て財あ
二二 らん且來て(十字架を負て)我に從へ　二二 彼この言に因て哀み憂て去ぬ蓋は
二三 大なる產業を有る者なれば也　二三 イエス環視て其弟子に曰けるは財
二四 ある者の神の國に入は如何に難かな　二四 弟子この言を駭けりイエス復こ
二五 たへて彼等に曰けるは小子よ財を恃む者の神の國に入は如何に難かな
二六 二五 駱駝の針の孔を穿るは富者の神の國に入よりも易し　二六 弟子たち甚く
二七 駭き互に曰けるは然ば誰か救を得べき乎　二七 イエス彼等を見て曰けるは
二八 人に於ては能ざる所なれど神に於ては然らず神は能ざる所なければ也　二八 是に
二九 てペテロ彼に曰けるは我儕一切を舍て爾に從へり　二九 イエス答て曰けるは
我誠に爾曹に告ん我と福音の爲に或は家或は兄弟或は姉妹或は父
三十 或は母或は妻或は子或は田畝を舍る者は　三十 この

世にて百倍を受ざる者なし即ち家や兄弟姉妹母子田畑を迫害と共に受
また來世にて永生を受ん 三一 然ど多の先なる者は後になり後なる者
は先になるべし○ 三二 さて彼等エルサレムに上る途間イエス弟子に先ち行
けれバ彼等おどろき且おそれて從へり イエス十二の弟子を携ひて彼等に己に及ん
とする事を彼等に告始けるハ 三三 我儕エルサレムに上り人の子ハ祭司の
長と學者等に付されん彼等これを死罪に定め異邦人に付さん 三四 又これを嘲
り鞭ち唾し且これを殺ん然ど三日めに甦るべし○ 三五 ゼベダイの子ヤコブ
とヨハネ イエスに來りて曰けるハ師よ我儕が求る事を聽くハ我儕に爲た
まへ 三六 彼等に曰けるハ爾曹に我が何を爲ん事を欲ふや 三七 彼等いひけるハ
爾の榮を得んとき我儕の一人を其右に一人を其左に坐せしめ給へ 三八 イエス彼
等に曰けるハ爾曹ハ求ふ所を知ず爾曹我が飲ところの杯を飲み我が受る
のバプテスマを受ることを得るや 三九 彼等いひけるハ得べしイエス彼等に曰ける
ハ爾曹ハ實に我が飲ところの杯を飲また我が受る所のバプテスマを受べ

[illegible]

[illegible]

も
四十 然ど我が右左に坐する事は我が予ふべきに非ず 備へられたる者に予ふ
べし
四一 十人の弟子これを聞てヤコブとヨハネを憤れり
四二 イエス彼等
を召て曰けるは異邦人の君と見る者は其民を治め又大なる者も彼等
の上に權を執ること爾曹が知ところ也
四三 然ど爾曹の中にては然する可らず
爾曹のうち大ならんと欲ふ者は爾曹に役る者となならん
四四 また爾曹のうち
首たらんと欲ふ者は凡て人の僕とならん
四五 蓋人の子の來るも人に役るゝ
爲に非ず反て人に役へ且おほくの人に代らの命を予て贖とならん爲なり
四六 ○ 斯て彼等ヱリコに至 イエスらの弟子と大なる群衆の人々と共にヱ
リコを出る時テマイの子なるバルテマイといふ瞽者路の旁に坐して乞ゐ
四七 けるが ナザレのイエスなりと聞て呼り曰けるはダビデの裔イエスよ我
四八 を憐み給へ 多の人々これに緘默と戒めけれども愈ますダビデの
裔よ我を憐み給へと叫けれバ
四九 イエス立止りて彼を召と命じければ人々
瞽者を召て彼に曰けるは心を安んぜよ 起よ イエス爾を召 瞽者らの衣服を

[illegible]

ず躍たちてイエスに來れり
五一 イエス答て彼に曰けるハ爾に何を爲れん
ことを欲ふや瞽者いひけるハ我見えんことを欲ふ
五二 イエス彼に曰けるハ往け な
んぢの信仰なんぢを愈せり直に見ることを得イエスに從ひて路を行り

第十一章

一 かれら橄欖山のベテパゲとベタニヤに至りエルサレムに近ける
時イエス二人の弟子を遣さんとして
二 彼等に曰けるハ當面の村に往
けかしこに入バ未だ人の乘ざる驢の駒の繋げるを見べし之を解て
牽來れ
三 もし誰か爾曹に何ゆゑ斯する乎といふ者あらバ主の用なりと言
へ直に之を此に遣るべし
四 彼等ゆきて門の外の岐路に繋げる驢馬の
子を見て之を解けれバ
五 其處に立る人々のうち或人かれらに曰けるハ
驢馬の子を解て何を爲る乎
六 弟子イエスの命ぜし如く曰しかバ彼等に許た
り
七 弟子驢馬の子をイエスに牽きたりて己が衣を其上に置けれバイエス
これに乘り
八 人々おほく其衣を路上に布あるひハ樹の枝を伐て路上に
布
九 かつ前にゆき後に從ふ人々呼り曰けるハホザナ主の名に託て來る

[illegible]

十 讃美べき哉 主の名に託て來る我儕の父ダビデの國へ讃美べし至上處
にホザナよ○ 十一 イエスヱルサレムに至り殿に入て遍く見まはし時すでに
に晩に及びければ十二と偕にベタニヤに出往り○ 十二 明日かれらベタニヤよ
り出る時イエス饑たり 十三 遠に葉ある無花果の樹を見てその樹に何か有ん
と欲て來しに葉の他なにも見ざりき是無花果の時に非ざれば也 十四 イエスこの樹
に對て今よりのち永久も爾の果を食ふ人あらざれといふ弟子これを聞り
○ 十五 彼等エルサレムに至りイエス殿に入てその中にをる賣買する者を逐
出し兌銀者の案と鴿を賣者の椅子を倒し 十六 また器を携て殿を過
ることを許さず 十七 また彼等に訓て曰けるは我が室は萬國の人の祈禱の室と
稱らるべしと錄されたるに非や然るに爾曹は之を盗賊の巣となせり 十八 學者
と祭司の長これを聞て如何してかイエスを殺さんと謀しが彼を懼たり蓋
人々みな其教に驚きたれば也○ 十九 日くれてイエス城邑を出行り○ 二十 翌朝
かれら無花果の樹の根より枯たるを見る 二十一 ペテロ憶出しイ

イエスに曰けるはラビ見よ詛し所の無花果樹は枯たり
二二 イエス答て彼等に
曰けるは神を信ぜよ
二三 誠に我なんぢらに告ん人此山に向ひて汝移りて海に入れと
いふ所の言の成べしと信じて心に疑はずば其言所の如く
成べし
二四 是故に我なんぢらに告ん凡て祈の時求る所の物は得たりと信ぜよ然ば
得べし
二五 又なんぢら立て祈禱する時もし人に恨
事あらば之を免せ是天に在す爾曹の父も爾曹の過を免されん為なり
二六 もし爾曹免さずば天に在す爾曹の父も爾曹の過を免さゞる可し○
二七 彼等またエルサレムに至りイエス殿を歩けるとき祭司の長学者および長老
二八 等きたりて彼に曰けるは爾何の權威を以て此事を行ふや又誰が爾に此事を行べき
權威を予しや
二九 イエス答て彼等に曰けるは我も一言なんぢら
に問ん爾曹われに答よ然ば我も何の權威を以て此事を行ふかを爾曹に告べ
し
三十 ヨハネのバプテスマは天よりか人よりか我に答よ
三一 彼等たがひに論じ
曰けるは若し天よりと言ば彼いかで彼を信ぜざるかと曰ん
三二 若し人より

三三 よりと云ば彼等民を懼たる也らへ民みなヨハネを預言者と爲に因る
答て知ずと曰イエス答て曰けるハ我も何の權威を以て之を行か爾曹に語らじ
一 第十二章 イエス譬をもて彼等に語れり或人葡萄園を作り籬を環し酒榨を
二 ほり塔をたて農夫に租與て他の國へ往しが 二 時いたりければ葡萄園の果
三 を收んとて僕を農夫の所に遣しけるに 三 農夫等これを執へ打擲きて徒
四 く歸しめたり 四 また他の僕を彼等に遣しゝに農夫等これを石にてうち首
五 に傷つけ辱しめて歸しむ 五 又ほかの者を遣しゝに之をも殺せり又ほかに
六 多く遣しゝに或へ撲あるひへ殺もし 六 彼に一人の愛子ありけるが我
七 子へ敬ふならんと曰て終に其子を遣しゝに 七 農夫等たがひに曰けるへ此
八 へ嗣子なり來れ之を殺さん然ば其業ハ我儕の者となるらん 八 乃ち執へて之
九 を殺し葡萄園の外に棄たり 九 然ば葡萄園の主人なにを爲べきか彼きたり
十 て農夫等を打滅し葡萄園を他の人に與ふべし 十 工匠の棄たる石へ隅の
十一 の首石と成り 十一 これ主の成たまへる事にして我儕の目に奇とする所なりと

録されしを未だ讀ざる乎
十二 彼等この譬へ己等を指て語れりと知イエスを執んとせしが衆人を懼てイエスを棄て去けり○
十三 彼等イエスを言に由て陷いれんとしてパリサイの人とヘロデの黨の中より數人を遣せり
十四 遣されし者等イエスの所に來り曰けるは師よ爾は眞なる者なり又誰にも偏らざる事を我儕は知る爾は人の外貌を視ず眞に神の道を教へ給ふ該撒に稅を納るは宜や否われら納べきか納ざるべきか
十五 イエスその僞ある事を知て彼等に曰けるは何ぞ我を試るや デナリを携來りて我に見よ
十六 かれら攜來りければイエス彼等に曰けるは此像と號は誰のぞ カイザルなりと曰
十七 イエス曰けるはカイザルの物はカイザルに歸し又神の物は神に歸すべし彼等これを奇とせり○
十八 復生なしと曰なせるサドカイの人きたりてイエスに問けるは
十九 師よ我儕にモーセが書遺るに人の兄弟もし子なくして妻を留し死ば其の兄弟この妻を娶て兄弟の嗣を立べしと
二十 爰に兄弟七人ありしが長子妻をめとり子なくして死 第二の者

ヲ [illegible]
ワ [illegible]
カ [illegible]
ヨ [illegible]

二二 これを娶また子なくして死　第三もまた然り七人みな之を娶たれど子な
二三 く終に婦も死り　復生の時かれら甦らん時婦ハ誰の妻と爲べきか蓋
二四 七人おなじく之を娶たれバ也　イエス答て彼等に曰けるハ爾曹ハ聖
二五 書も神の能をも知ざるに因て誤れるならずや　それ死より甦る時ハ娶ず嫁
二六 がず天にある使者等の如し　死し者の甦る事に就てハモーセの書録中の
棘に於かれに語て我ハアブラハムの神イサクの神ヤコブの神なりと曰た
二七 まひし事を爾曹讀ざる乎　神ハ死し者の神に非ず生る者の神なり爾曹大に
二八 誤れり○　學者の一人かれらの議論を聞てイエスの善く答しを知
二九 たり前に問けるハ誡の中ハ何か第一なる乎　イエス彼に答けるハ諸の誡
三十 の首ハイスラエルよ聽け主なる我儕の神ハ獨一の主なり　なんぢ心を盡
三一 し精神を盡し意を盡し力を盡し主なる爾の神を愛すべし是首の誡なり
三二 其二も亦これに同じ己の如く爾の隣を愛すべし誡ハ此より大なる者なし　學
者イエスに曰けるハ善かな師よ眞に誠ハ神ハ一にして他に神なしと曰しハ

There were 248 affirmative precepts, being as many as the members in the human body; and 365 negative precepts, being as many as the arteries and veins, or the days of the solar year; the total being 613, which was the number of the letters in the Decalogue.

三三 眞なり　また心を盡し知慧を盡し精神を盡し力を盡して之を愛し又おの
れの如く隣を愛するハ諸の燔祭と禮物よりも愈るなり　三四 イエス其聰明
く答るを見て之に曰けるハ爾ハ神の國に遠からず　此後あへて彼に問
者なかりき○　三五 イエス殿に在て教を施る時かれらに答て曰けるハ何
ぞ學者ハキリストをダビデの裔といふ乎　三六 ダビデ聖靈に感じて自いふ
主わが主に曰けるハ我なんぢの敵を爾の足凳となすまで我右に坐せよと
三七 然ばダビデ自ら彼を主と稱たり然れバ如何で其裔ならんや　多の人々喜て
之に聽り○　三八 イエス教をなせる時かれらに曰けるハ長
衣を着て歩むことと市にて人の問安と　三九 會堂の高坐と筵席の上座を好む
四〇 又嫠婦の家を呑み佯りて長き祈をなす學者を謹め　彼らハ更に重き
刑罰を受べし○　四一 イエス殿の庫に對て坐し人々の錢を庫に入るを見たま
ひしに多の富者ハ多く投入たり　四二 一人の貧き嫠婦きたりて二のレプタを投
入る此ハ一コドラントに當れり　四三 イエス其弟子を招て彼等に曰けるハ誠に

詩百十〇一
路二十〇四十五
路二十一〇一

四三 我なんぢらに告ん此の貧き寡婦は賽錢箱に投入し凡の人々よりも多く投入たり
四四 そは彼等は皆その餘る所を投入たれど此の婦はその不足なる中より其
すべての所有なる生命の資を盡く投入たれば也

第十三章

一 イエス殿より出けれ其一人の弟子かれに曰けるは師よ觀たまへ
此等の石この殿宇いかに美ならずや 二 イエス答て曰けるは爾この大な
る殿宇を見か一の石も石の上に遺れずして崩されん 三 イエス橄欖山にて殿
に對ひ坐し給しにペテロ ヤコブ ヨハネ アンデレ竊に彼に問けるは 四 何の時こ
の事あるや又すべて此等の事の成ん時は如何なる兆あるや我儕に告たまへ
五 イエス答て彼等に曰けるは人に欺かれざるやう愼めよ 六 蓋おほくの人わ
が名を冒し來り我はキリストなりと曰て多の人を欺くべし 七 戰爭と戰の
風聲を聞とき懼るる勿れ是等の事は皆あるべきなり然ど末期は未だ至
らず 八 民は起て民を攻め國は起て國を攻また處々に地震あり饑饉騷亂あり是
等は苦難の始なり 九 爾曹みづから愼め人なんぢらを議會に付され又會

堂にて撻たれ且我を爲んため有司および王の前に曳出さるべし 十 然して福音まづ萬國に宣傳へざるを得ず 十一 人なんぢらを曳て解さん時何を言んと預め思慮なかれ又考ふるなかれ其時なんぢらに賜る所の事を言べし言ふ者は汝等に非ず聖靈なり 十二 兄弟は兄弟を死に付し父は子を付し又子たちは父母に逆ひて之を死しめんことを爲ん 十三 又なんぢら我名の爲に凡の人に憎るべし然ど終まで忍ぶ者は救るゝことを得ん 十四 預言者ダニエルの言し所の殘暴可惡者の立べからざる所に立を見ば(讀者よく曉るべし)其時ユダヤに在る者は山に逃よ 十五 屋上に在る者は室に下るなかれ又物を取んとて其家に入なかれ 十六 田に在る者は其衣服を取んとて歸るなかれ 十七 其日には孕る者と乳を哺する婦は禍なる哉 十八 なんぢら冬にこの事の起らざらん事を祈れ 十九 其日に患難あらん此の如き患難は神の物を創造たまひし開闢より今に至るまで有ざりき亦後にも有じ 二十 もし主その日を減少し給ずば一人だに救る者なし然ど主の選たまへる所の選れし者の爲に其日を減

少も紛ふべし 二一 其時もしキリスト此にあり彼に在と爾曹にいふ者あるとも信ずる勿れ 二二 そは僞キリスト僞預言者おこりて休徵と奇跡を行ひ選れたる者をも欺くことを得ば欺くべければ也 二三 なんぢら愼よ我預じめ爾曹に告しなり 二四 その日この患難の後日は暗く月は光を失ひ 二五 天の星は隕ち天の勢ひ震ふべし 二六 其とき人々は人の子の大なる權威と榮光を以て雲の中に來るを見ん 二七 また其とき人の子その使者等を遣して四方の極より天の極まで其選れし者を集むべし 二八 なんぢら無花果樹に由て譬を學べ其枝すでに柔かにして葉めぐめば夏の近きを知 二九 此の如く爾曹も凡て是等の事を見ば時ちかく門口に至ると知 三十 われ誠に爾曹に告ん是等の事ことごとく成までは此世は過ざるべし 三一 天地は廢ん然ど我言は廢じ 三二 其日その時を知者は天に在る使者も知ず子も知ず惟父のみ知り給ふ○ 三三 愼め いづれの時きたる乎を知ざれば警醒つゝしみて目を醒し祈禱せよ 三四 それ人の子は遠國に旅せんとして其家を出る時その僕に權を與へ各々に其業を與へ門を守る者に警醒べき事を

馬太二十四章四十二　路加十二章三十五　馬太二十六章二　路加二十二章一　約翰十二章一　馬太二十六章六

を任け又閽者に怠らず守れと命じて家を去る人の如し
三五 是故に儆醒し怠らずして守れ家の主人の來るは晩あるひは夜半あるひは鷄鳴あるひは早晨に歸るかを知ざれば也
三六 恐くハ不意の時きたりて儆醒が眠るを見ん
三七 われ怠らずして守れと爾曹に言ることハ即ち凡の人に言なり

第十四章

一 さて逾越節即ち除酵節の二日前に祭司の長と學者たち詭計を設てイエスを執へ殺さんとし
二 曰けるハ節の日にハ爲べからず恐くハ民の中に亂おこらん
三 イエス ベタニヤに在て癩病人シモンの家にて食し居たまへる時ある女蠟石の盒に價貴きナルドの香膏を盛て携來り其盒を毀りイエスの首に膏をそゝぎたり
四 或人々衷に憤を含いひけるハ何故に此香膏を費すや
五 之を賣バ三百有餘のデナリを得て貧者に施すことを得んと此婦を責む
六 イエス曰けるハ彼に任せよ何ぞ此婦を擾すや我に善事を行へる也
七 貧者ハ常に爾曹と偕に在バ爾曹欲ふ時ハ恩を施すことを得べし然ど我ハ常に爾曹と偕に在ず
八 この女ハ力を盡して作りあらかじめ我を葬

九 る爲わが身に香を沃しなり　我まことに爾曹に告ん天の下いづくにても
福音を宣傳る處には此女の行し事も亦其記念の爲に述らるべ
十 し○さて十二の一人なるイスカリオテのユダ　イエスを付さんとて祭司の
十一 長に往しに　彼等これを聞て悦び銀子を予んと約せしかばユダ　イエス
十二 を付さんと機を窺へり○除酵節の首の日すなはち逾越の羔を殺す
十三 べき日弟子イエスに曰けるは　我儕何處へ往て逾越の食を備ふべき乎　イ
エス二人の弟子を遣さんとして之に曰けるは　京城に往　然ば水を盛たる
十四 瓶を携る人に遇べし之に從へ　その入ところの家の主人に語いふ　我弟子
十五 と偕に逾越を食すべき客舍 師へ安に在やと曰　然れば彼備設たる大なる樓
十六 房を爾曹に示すべし我儕の爲に其處に備よ　弟子ゆきて京城に入しにイエ
十七 スの曰たまへる如く遇しかば逾越の備をなせり○日暮てイエス十二の
十八 弟子と偕に來れり　かれら席に就て食する時イエス曰けるは誠に我なん
十九 ぢらに告ん我と偕に食する爾曹のうち一人われを賣すべし　彼等憂て各

[illegible]

各イエスに言出けるは我なる乎また他の一人も曰けるは我なる乎 二十 イエ
ス答て曰けるは十二の中の一人われと共に手を盤に着る者是なり 二一 人の
子は己に就て録されたる如く逝ん然ど人の子を賣す者は禍なる哉かの人
は生れざりしならば彼に幸なりしならん 二二 かれら食する時イエス パンを取て祝し
之を擘かれらに予て曰けるは取て食へ此は我身なり 二三 また杯を取て謝して
彼等に予ければ皆この杯より飲り 二四 イエス曰けるは此は新約の我血にし
て衆の人の爲に流す所のものなり 二五 我まことに爾曹に告ん今よりのち新し
きものを神の國にて飲ん日まで再び葡萄にて造るものを飲じ 二六 かれら歌
をうたひて橄欖山に往り 二七 イエス彼等に曰けるは今夜なんぢら皆われに就て
躓かん蓋われ牧者を撃ん其羊は散べしと録されたれば也 二八 然ど我よ
みがへりて後なんぢらに先だちてガリラヤに往べし 二九 ペテロ イエスに曰ける
は假令みな躓くとも我は躓かず 三十 イエス彼に曰けるは我まことに爾に告
ん今日この夜鷄二次鳴ざる前に爾三次われを知ずと曰ん 三一 彼また力言ひ

けるハ我ハ汝と偕に死るとも爾を知ずと曰じ弟子みな如此いへり 三二 斯て
彼等ゲツセマネといふ所に至りイエスその弟子に曰けるハ我が祈る間こゝに
坐せよ 三三 而してペテロヤコブヨハネを携ひゆき甚く驚き且悩み 三四 彼等
に曰けるハ我心いたく憂て死るばかりなり爾曹こゝに留りて目を醒し居よ 三五
イエス少し前行て地にふし祈り曰けるハ若かなふ事ならバ此時を我より過させ給へ 三六
また曰けるハアバ父よ爾ハ能ざる所なし此杯を我より取去給
へ然ど我が欲する所を行ふにあらず爾の聖旨を成し給へ 三七 イエス來
りて彼等の寝たるを見ペテロに曰けるハシモンなんぢ寝たるか一時も目
を醒し居ことあたはざるか 三八 誘惑に入ざるやう目を醒し祈れ心ハ熱すれ
ど肉體よわき也 三九 又ゆきて同じ言をもて祈れり 四十 還りて復彼等の寝た
るを見る彼等の目倦たるなり彼等イエスに何と對ふ可かを知ざりき 四一 三
次來りて彼等に曰けるハ今ハ寝て安め足れり時いたれり人の子ハ罪
人の手に付さるゝ也 四二 起よ我儕ゆくべし我を賣す者近けり○ 四三 斯いへる

[illegible]

時たちに十二の一人なるユダ劍と棒とを持たる多の人々と共に祭司の
四四 長學者および長老の所より來る　イエスを賣者かれらに號をなして曰け
四五 るは我が接吻する者は夫なり之を執て謹み引ゆけ　即ち來りてイエスに
四六 四七 就よりラビラビと曰て接吻せり　人々手をイエスに掛て執ふ　傍に立る
四八 者の一人劍を拔て祭司の長の僕を撃て其耳を削おとせり　イエス答て彼等に曰
四九 けるは盜を捕るごとく劍と棒とを持て我を執んとて出來るか　我日々なん
ぢらと共に殿にて教しに爾曹われを執ざりき然ど如此なるは聖書に應せんが
五十 五一 爲なり　弟子みなイエスを離て逃去ぬ　一人の少者裸の身に枲布を纏
五二 てイエスに從ひ來りしが少者等これを執へければ　かれ枲布を棄
すて裸にて逃去り○　彼人イエスを祭司の長に曳往けるに祭司の長長老
五四 および學者ども皆その所に集れり　ペテロ遠く離れてイエスに
五五 從ひ祭司の長の庭の內まで入僕と共に坐して火に煖まり居り　祭司の長
五六 および議員みなイエスを殺んとして證を求れども得ず　多の人々イエス

五七 に衆の僞證を出せしも其證あはず　或人々たちて妄の證を出しけるは
五八 かれ手を以て作たる此殿を毀ち三日の間に手を以て作らざる別の殿を
五九 六〇 建んと言しを我儕聞り　如此いひしが其證また符ず　祭司の長中に立
てイエスに問いひけるは爾何も答る所なき乎この人々の爾に立る證據は如何
六一 イエス默然として何も答ざりければ祭司の長また彼に問て曰けるは爾は
六二 頌べき者の子キリストなる乎　イエス曰けるは然り人の子の大權の右に
六三 坐し天の雲の中に現れ來るを爾曹見るべし　是に於て祭司の長その衣を
六四 裂て曰けるは我儕なんぞ證據を求んや　爾曹この僭妄を
も聞る所なり爾曹如何に思ふや彼等皆イエスを死に擬るべき者と定た
六五 り　或者は彼に唾し又其面を蔽ひ拳にて擊て曰けるは預言せよと下役等
六六 も掌にて彼を打り　ペテロ下庭に在しに祭司の長の使女きたりて
六七 其火に煖まり居を見つらつら彼を視て曰けるは爾もナザレのイエスと
六八 偕に在し　ペテロ肯はずして曰けるは我これ爾が言ところを知ず解ず と

＊四三〇

ノ太廿七ノ一　二ノ十一二十　路廿三ノ一　約十八ノ二十八

ヤ路廿三ノ二　太廿七ノ十二　約十八ノ三十三

の事を識得ざるなり遂て外門に出ければ鶏鳴ぬ
六九 かの婢これを見て傍に立る者に又いひけるは此人もかの黨の一人なり
七十 ペテロまた肯はず少頃して傍に立る者またペテロに曰けるは爾は誠に彼の黨の一人なり蓋なんぢは
七一 ガリラヤの人なり其方言これに合りと是に於てペテロ詛て我神の罰を受
るとも爾曹が言る其人を識ずと曰しが
七二 鶏二次鳴ければペテロ、イエスの鶏二次なく前に三次我を識ずと曰んと言たまひし事を憶出し且これを思ひて哭泣めり

第十五章

一 平旦に及び祭司の長老學者たち凡の議員と共に議てイエスを縛り曳携てピラトに解せり
二 ピラト彼に問けるは爾はユダヤ人の王なるかイエス答けるは爾が言る如し
三 祭司の長多端なして彼を訟ふ
四 ピラト復イエスに問て曰けるは爾し答ざるか彼等が爾について證を作しこと幾許ぞや
五 ピラトの奇と爲までにイエス何をも答ざりき
六 此の節筵には彼等が求に任せて一人の囚人を赦すの例なり
七 時にバラバと云

る者あり己と與に試叛せし黨と共に縛れ居たりしが彼等は其の試叛のとき人を殺しゝ者等なり
八 人々聲を揚て例の如く爲んことを求め
九 ピラト彼等に答て曰けるは爾曹ユダヤ人の王を釋さんことを欲か
十 蓋祭司の長等が媢嫉に因てイエスを付しゝと知たればなり
十一 祭司の長等群衆にバラバを釋さん事を求むと唆し
十二 ピラトまた答て彼等に曰けるは然ばユダヤ人の王と稱る者を我いかに爲べき乎
十三 彼等また叫びて之を十字架に釘よと曰
十四 ピラト彼等に曰けるは彼なんの惡事を行しや彼等ますます叫びて之を十字架に釘よと曰
十五 ピラト群衆の意を滿さんとしてバラバを彼等に釋しイエスを鞭ちて之を十字架に釘ん爲に付せり
十六 兵卒等これを公廳に曳ゆき全隊を呼聚め
十七 紫衣を着せ棘にて冕を編て冠しめたり
十八 禮て曰けるはユダヤ人の王安かれ
十九 また葦を以て其首を撃ち唾し跪きて拜せり
二十 嘲弄し畢て紫の衣をはぎ彼の衣を着せて十字架に釘んとて曳出せり
二十一 アレキサンデルとルフの父なる

ナ 使三ノ十四
ト 太二十七ノ二十六 約十九ノ一
チ 太二十七ノ二十七 約十九ノ二

[illegible]

クレネのシモンと云る者の田舎より來りて其路を經過りければ強て之にイエスの十字架を負せたり 二二 イエスをゴルゴタ譯ば髑髏と云る所に携來り 二三 沒藥を酒に調て飲せんと爲りしに之を受ざりき 二四 イエスを十字架に釘しのち籤を掣て誰が何を取んと衣を分てり 二五 朝の九時にイエスを十字架に釘く 二六 その罪標をユダヤ人の王と書つく 二七 二人の盜賊をかれと共に一人は其右に一人は其左に十字架に釘らる 二八 これ經書に罪人と共に數られたりと云し言に應り 二九 往來の者イエスを罵り首を搖て曰けるは噫殿を毀て之を三日に建る者よ 三〇 自己を救て十字架を下よ 三一 祭司の長學者等も同く嘲弄して互に曰けるは人を救て自己を救ひ得ず 三二 イスラエルの王キリストは今十字架より下るべし然ば我儕見て之を信ぜん又ともに十字架に釘られたる者共も彼を詬れり 三三 晝の十二時より三時に至るまで遍く地のうへ暗なりき 三四 第三時にイエス大聲に呼りエロイ エロイ ラマ サバクタニと曰これを譯ば我神わが神なんぞ我を遺たまふやと云るなり

三五 に立たる者のうち或人これを聞て彼ヱリヤを呼なりと曰　一人はしり
往て海絨をとり醋を滿せ之を葦に束て彼に飲しめ曰けるハ俟エリヤ來り
三七 三八 て彼を救ふや否こころむべし○　イエス大聲に呼て氣絶たり○　殿の幔上
三九 より下まで裂て二に分り　イエスに對て立たる百夫の長かく呼り氣絶し
四十 を見て曰けるハ誠に此人ハ神の子なり○　また遠に婦ありて觀居たり其中
に抹大拉のマリア又小ヤコブとヨセの母なるマリア又
四一 サロメなり　彼等ハイエスのガリラヤに在ける時これに從ひ事へ
四二 し者なり　此の外にも彼と共にエルサレムに上りし多の婦ありき○　日已に
四三 暮しに是日ハ預備の日にて安息日の前なり　是故に尊き議員なるアリマタヤ
のヨセフと云る者きたれり此人ハ神の國を望る者なり　彼膽ありて
四四 ピラトに往てイエスの屍を求たり　ピラト イエスの已に死るを奇み百
四五 夫の長を呼て彼ハ死てより久きを經たるや否や問　百夫の長より聞て
四六 之をヨセフに予ふ　ヨセフ細布を買求め而してイエスを取下し

之を其の細布にて裹み磐に鑿たる墓におき大なる石を墓の門に轉し置り　四七　マグ
ダラのマリア及ヨセの母なるマリア其葬し處を見たり

第十六章　一　安息日過てマグダラのマリアとヤコブの母なるマリア及サロメ
香料を買そろへイエスに膏んとて來れり　二　七日の首の日いと早く日の
出る時かれら墓に來り　三　互に曰けるは誰か我儕の爲に石を墓の門より轉
し去もの有んか蓋その石ははなはだ巨大なれバ也　四　彼等目を擧れバ石
の已に轉あるを見る　五　墓に入しに白き衣を衣たる少者の右の方に坐せるを
見て駭き畏めり　六　少者かれらに曰けるは駭き畏む勿れ爾曹は十字架に釘
られしナザレのイエスを尋ぬ彼は甦りて此に居ず彼を葬し處を觀よ　七　且
ゆきて其弟子とペテロに告よ彼は爾曹に先ちてガリラヤに往り爾曹かし
こにて彼を見べし嘗て爾曹に言しが如し　八　彼等いでゝ墓より奔れ
り且戰慄かつ驚き奇みて人に何をも言ざりき懼たればなり〇　九　イエス七
日の首の日よあけごろ甦りてマグダラのマリアに見給ふ曾にイエス彼より

十 りしの惡鬼を逐出せり イエスと共に在し者の哭哀める時に此語きたり
十一 て彼等の告たる 彼等イエスの活て此の婦に見へ給ひしことを聞も信
十二 ぜざりき 此後かれらの中二人の者郷村へ往けるが路を行ときイエス顯
十三 たる貌にて彼等に現る この二人の者ゆきて他の弟子等に告けれども彼
十四 等これをも信ぜざりき○ 又ろの後十一の弟子の食しゐる時に現れて彼等
が信なきと其心の頑なるを責め給へり蓋かれらイエスの甦り給るのち其を
十五 見し者の言ところを信ぜざりし故なり○ イエス彼等に曰けるは爾曹普く天下
十六 を歴て凡の人に福音を宣傳よ 信じてバプテスマを受る者は救れ信ぜさ
十七 る者は罪に定らるべし 信ずる者に此の如き奇跡したがふべし我名に
十八 頼て惡鬼を逐出し新なる方言を言ひ また蛇を執へ毒を飲とも害なく又
十九 手を病る者に按ば愈ん○ 斯て主は彼等に語しのち天に挙られ神
二十 の右に坐し給ぬ 弟子たち出て普く福音を宣傳ふ主も亦かれらに力を添て其徵
ある奇跡によりて道を堅うしたまへり アメン

新約全書馬可傳福音書の終

Mk. prob. bef., but not long bef., 70 A.D. ([illegible])
Matt. prob. published not many years after Mark.
Lu. prob. about the same time as Matt. about 80 A.D.
John. about 100 A.D.

Characteristics of the Gospel ([illegible])
1. Sympathetic Gospel
2. Samaritan "
3. Perean "
4. Infancy "
5. Womanhood "
6. Thanksgiving "
7. Prayer "